

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して、毎月第4木曜日にスタッフ会議を行ない理念を基にその人らしさを考え対応する様にカンファレンスしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民へ災害時の協力の呼びかけ、サロン、安全パトロールへの参加を行なっている。散歩の途中で近所の店へ立ち寄り、幼稚園、中学生、高校生のボランティアグループとの交流もある。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	散歩や温泉の行き帰りなど前を通られる方へ気軽に声かけしている。ライフサポートワーカーの看板も掲げ、相談所にもなっている。サロンで認知症の勉強会も開催する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、職員、行事などの状況を報告しながら、毎回テーマを決めて、勉強会も行ない、話し合いの結果は、申し送りノートを利用して全員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方も運営推進会議への参加があったり、ライフサポーターの会議で職員の方々と話す機会が多く、協力関係ができています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの掲示をし、担当者が資料を用いて勉強会を行ない、利用者の行動を見守り安全につとめ特に、言葉拘束に注意しながら、声かけを行なっている。特に危険性のある方は、ミーティング又は、その都度スタッフ間で話し合い問題解決につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を中心に虐待の防止をスタッフ間で意識づけしながら職員もストレスが最小限になり、何でも言える関係性を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族が近くに居なかったり、連絡が来ない方があったりするので、権利擁護と成年後見制度の勉強会も行なっている。現在使用者、ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ホームでの実際の生活状況、雰囲気を家族、又は利用者さんに感じてもらう為お茶を飲みながら過ごしてもらって理解、納得してもらってから契約してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られたり、誕生会、その他の行事に参加された時、個別に意見や要望を聞きスタッフ会議で検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は、スタッフ会議又は、管理者あてのノートを利用して代表者事務長へお願いしている。可能な限り反映させてもらっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の作成では、本人の勤務希望を基に誕生月には有給休暇を又、ほとんどの職員が年2～3日休みを取り旅行などに行っている。急用時などスタッフ同士で勤務に支障が無いように交替している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要と思われる研修又は、本人の希望する研修など進んで参加してもらい参加後は、他のスタッフへの報告勉強会をしている。資格を取りたい人は各自勉強し、挑戦している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス事業所と、グループホーム協議会への加入で活動、研修、全体のレクリエーションなど参加を積極的に行ない他事業所との交流も図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前に、本人又は家族も一緒に、スタッフ、他の利用者さんの様子を感じてもらい、これからの不安、今困っている事を話してもらい安心できる説明を充分行なう。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人、家族の双方の気持ちを聞き汲み取り、これからの支援の方法を話し合い、入居時の不安の除去につとめる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の思いを見て聴き、利用していた事業所医療機関等の資料を基に必要な事を判断しこれからのサービスも視野に入れていく。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の困り事を見て、聞いて感じて、相手の立場に立った支援ができて、スタッフと一緒に生活する関係を築き、本人のできる事をさがし、一緒に行なえるようになる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の家族へ、利用者さんの日々の暮らしの様子を伝え、家族の希望聞き可能な限り取り入れていく。外出できる方は、一緒に外出してもらおう。遠い方は、電話、手紙の利用をする。毎週テレビ電話で話をされる方も居る		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで使用していた物、写真、近所への散歩で馴染みの方との会話家族との一時帰宅などの支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでテレビ観たりテーブルの所で声かけしたり、昔の話をしている。（食事やオムツ、レクレーション時は楽しそうに会話している）		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までサービス利用の中止された方がいない。あったら、支援をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で動き、表情、会話の中から発見した利用者さんの思いや意向を記録し、何が一番必要であるか職員間で共有し対応していく。家族へも本人の思いを伝えて可能なことは、手伝ってもらう。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんとゆっくり話をする時間を持ち、今までの人生を振り返ってもらい会話の中から新しい発見をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムに合わせて行動、言葉、表情から本人の思いに添った支援を行なっている。その日によって違うので、その日の状況に合わせて援助を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での思いや希望を感じたり、職員間でのあり方モニタリングをスタッフ会議で行なう。家族の面会時現状を報告し家族の思いを聴き計画に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録は本人の言われたことばで記載して違った状況は必ず記録に残す。職員間の申し送りは、必ず介護記録を見ながら実施し、重要かつ情報を共有する部分は色を変えたり赤枠で囲み、計画の見直しに活かす。</p>			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人への希望、今までの生活習慣み沿って、外出、受診支援、自治会への参加など今までのつながりが継続できるようにしている。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアグループによる音楽、踊り、中学校の吹奏楽の子供達、幼稚園の園児の訪問、地域の子供会の子供達のふれあいがある。</p>			
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎月2回訪問診療あり、体調不良や急変時は母体の医院のDrがすぐ対応する。リハビリを受けている方もいる。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝、健康チェックを行ない体調の変化時は、職場内のNsが対応する。医療処置の必要時は主治医連絡し対応できている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、管理者又はNsが訪問し医療機関と情報交換できている。Nsが多いので病院への関係作りがしやすい。(28年度は入院の方はいなかった)</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取り介護の説明を行なっている。重症化した時は、主治医、家族、管理者、職員で話し合い日々のケアを支持している。家族が納得された上で良い終末期が送れる様に連携しながらチーム全員で支援する。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの勉強会をしている。皮膚の剥離処置、誤嚥時の対応なども行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を昼間、夜間で実施、自分で考えて行動できる様になっている。地域の方は、見守りをお願いしてある。備蓄品もある。 ・水害時の訓練は2Fか医院への避難を行なう。 ・自治会の方も避難所に希望されている（独居高齢者が多いので）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあつた言葉かけに気をつけ特に排泄に関しては、プライドを傷つけない様に注意してプライバシーを守る対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の理解力に合わせて、本人と向き合っ、ゆっくり話し希望や決定できるように支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や、食事、オムツ、入浴などその方の体調気分に合わせて変更したり、昼寝など自由にしてもらっている。レクレーションも本人の希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服装や入浴の準備は利用者さんと一緒に声かけしながら決める。散髪は2ヶ月1回オームで行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事会は、利用者さんの希望を聞きメニューを決めている。タマネギやもやしひげ取りなど又は、茶碗、お盆拭きの手伝いもしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限の指示がある方は本人へ説明を行ない理解してもらい水分量の調節をしている（透析の方）1日の経過表で食事、水分量を把握している。その方にあつた食器、食物の形体必要時のトロミなど各自のペースでおいしく食べられる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄のできる方は、自分でするように声かけ見守りする。できない方介助で行ない、お茶うがいまでしてもらっている。義歯のあわない方受診又は入れ歯安定剤の利用あり。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の確認や様子を見て声かけして、トイレを利用してもらっている。昼間のトイレは起立訓練を兼ねて行なう。（車イスかろの便座移乗）		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がスムーズに行なえる様に食事、水分、サツマイモ、腹部マッサージ体操などを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本としている。入浴時は一人一人ゆっくり入浴剤を入れて入ってもらっている。入浴できない日は清拭更衣している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に応じた睡眠パターンに合わせ、表情、動きに注意し声かけしながら安心して眠れる様に見守る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食札に写真と薬名、錠剤の数名前を書いてあり、服薬時は薬袋を食札の確認を行ってから飲んでもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自でできること食材の下処理洗濯物たたみなど手伝いしながら会話がはずんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会時外食へ行ったり、受診で外出されたりしている。寒い時や暑い時は外出が少なくなる。季節により菜の花、もみじやコスモス見に外出したりする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持っていて、自分の思いで使える方はいない。本人の買い物の希望で買ってくる事もある。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>毎週土曜日テレビ電話を家族とされる方もある。(家族からかかってくる)自分から☎してと言われる方もある。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、台所、フローアから全部を見渡せる様にできていて、テレビの前にソファがあるがほとんどの方が車イスでテレビ観られ本人希望時はソファへ移動し、猫と一緒にゆったり過ごしている。</p>			
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルを囲んだり、テレビの前に居たり思い思いになごやかに過ごせる様に席を配慮している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分好みのふとん（家族の準備した物）若い頃やご主人などの写真を飾ったり、面会時は居室でゆっくり会話できる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ナースコールの設置あり、活用している。夜間のみポータブルトイレ使用個人個人の動線基に自室は状態に合わせBed, ポータブルトイレの位置をその都度対応しながら変えて、安全で使いやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない